特別寄稿

新教育課程の根底を問う

郡山女子大学短期大学部教授　**長谷川　寿　郎**

新教育課程については，多くの解説が出されているし，すでに移行措置の２年目にもなっているのであるから，各学校においては，既に十分な取り組みがなされていることと考えられる。したがって，今さらめかしく解説を筆者などが行う必要はないであろう。

しかしながら，今次の新教育課程による学校教育の改善は，従前の改善の場合よりも，いっそう深く，それは，世界史的転換が想望されるべき史的境位において，21世紀への国民教育を志向して行われるものでなければならないという意味で，吟味されなくてならないであろう。

このような見地から，新教育課程をその根底において支えるもの，というよりはむしろ，支えなければならないものに目をむける必要がある。そうすることによって，今次の改善の意味を充実する実践の基盤を確かなものにしたいと思うのである。以下の小文が,果たしてそれに値するかどうか,ご批判を願わなければならない。と同時に，新教育課程の編成の実務に当っては，その基盤となるものについて既に当然十分な考察が行われているとなれば，この小文の如きは無用の贅言である。いたずらに紙幅を費すことについて，ご寛恕を願わなければならない。

なお，このような次第であっても，教育改善に対して思いを致す者の一人に，所見を表明して大方の批判を請うことを得しめるという意味においてこの小文も認められるならば，まことにありがたい。

1．新教育課程の基準における人間像について

教育課程は，望ましい人間への育成のための教育の計画であることは，先刻承知のところであるが，この望ましい人間の人間像をどうおさえるかが，すなわち，教育の目的を確かにとらえておくことが根本であって，このための計画でなければならない。このことも当然わかっているのではあるが，教育課程の編成の実務の過程では，ともすれば，所与の教材の排列，時間の配分等に傾斜してしまいがちにならないか。

教材は，この望ましい人間像への育成のために，果たして充分ふさわしいものであるか，この指導の時間配分は，児童・生徒の実態に即して，この目的達成に対してふさわしくあるのかが，深く検討されるべきであることも，言をまたないところであろう。

こういうわけで，望ましい児童・生徒像をどのようにおさえているかを，教育課程審議会の答申について，再確認する必要があると思うのである。

さて，教育課程の基準の改善のねらいの第一項に，人間性豊かな児童生徒を育てることとあって，さらに，このためには，ひとりひとりの児童生徒に対し，しかじかのことなどに特に留意する必要があるとしている。

この内容は，人間性豊かな児童生徒の資質条件中，今日の状況に即して，特に重要なものをあげていると見ることができよう。すなわち，人間性豊かな児童生徒を，のぞましい人間像と見，その資質内容中特に重要と考えられるものをあげているとするについては，異論のないところであろう。

これを，教育の目的，目標という視点から整理してみると，豊かな人間性は，これは目的とすることができ，つぎのように目標をおさえることができよう。すなわち，

(1)　自ら考える力および創造的な知性と技能
(2)　強靭な意志力および自律的精神
(3)　自然愛，人間愛を大切にする豊かな情操
(4)　正しい勤労観
(5)　社会連帯意識や奉仕の精神に基づく実践的社会性